

II 情報交換推進事業

情報交換推進事業

1 実施機関及び担当者

高知県水産試験場

漁業資源部長	中	島	敏	男
総括主任研究員	森	山	貴	光
主任研究員	新	谷	淑	生
"	浦		吉	徳
"	明	神	寿	彦
研 究 員	梶		達	也
"	青	野	怜	史

2 対象海域及び漁業種類

高知県地先沿岸及び沖合域におけるイワシ・アジ・サバ・カツオ等を対象とする漁業

3 実施期間

平成17年4月1日～平成18年3月31日

4 情報収集

漁協、漁業指導所、漁業情報サービスセンター、漁業無線局（漁船、調査船）及びその他関係機関から電話、ファックス、郵便、現地調査により情報を収集した。

5 広報の方法

新聞、ファックス、郵便、電話により漁業者、漁協、漁業指導所、漁業情報サービスセンター及びその他関係機関に広報した。同時に高知県漁海況ホームページに掲載した。漁海況速報発行状況は表1に示した。

なお、平成17年下半年（8～12月）の漁海況予報、平成18年上半年（1～6月）の漁海況予報は資料1,2のとおり。

また主要魚種、主要漁業種類別漁獲統計、調査地は 主要魚種・主要漁業漁獲統計に示した。

表1 漁海況速報発行状況

発行年月	回数	部数	備 考	
17年 4月	4	84	8月 平成17年下半年（8～12月）漁海況予報 （資料1）	
5	4	84		
6	5	83		
7	4	82		
8	5	82		
9	4	82		
10	4	82		
11	5	82		
12	4	83		
18年 1	3	83		1月 平成18年上半年（1～6月）漁海況予報 （資料2）
2	5	83		
3	4	83		
計	51	993		

(資料1)

高知県長期漁海況予報(要約版)

平成17年下半期(8~12月)の漁況・海況の予想

平成17年8月発行 高知県水産試験場

このたび、平成17年8月から12月を予測期間とした「平成17年度第1回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁況海況予報会議」が横浜市で開催され、国、高知県及び関係都道府県等の最新の調査結果から長期予報が作成されましたので、高知県関係を中心にその概要をお知らせします。

海況

【海況の経過(平成17年1月~6月)】

1. 黒潮

2月上旬まで足摺岬沖で「接岸」、室戸岬沖で「やや離岸」の状況が継続しました。2月前半に発生した都井岬沖の小蛇行の発達・東進にともない2月後半から足摺、室戸両岬沖で離岸傾向となりました。3月から4月は足摺岬沖、室戸岬沖ともにおおむね「やや離岸」で推移しました。その後5月中旬に両岬沖で「接岸」基調となり、6月中継続しました。

2. 沿岸海況

土佐湾定線海洋観測結果による沿岸水温は、前半は平年並みから高め傾向で推移しましたが、後半には低め傾向となりました。

月別に見ると、1月は全層で「平年並み」、2月は0m~100mで「平年並み」、200mで「やや低め」で推移しました。3月は0m~100mで「やや高め」、200mで「かなり低め」、4月は0m~100mで「やや低め」、200mで「かなり低め」に推移しました。5月は0mで「平年並み」、50m~200mで「やや低め」、6月は0mで「平年並み」、50mで「かなり低め」、100m、200mで「著しく低め」となりました。

3. 特異現象

海況

・6月の土佐湾平均水温において、100、200mは過去最低水温、50mは過去3番目の低水温でした(1975年以降、欠測年あり。)

漁況

- ・1月、足摺岬沖のマルソウダ(メジカ)曳縄漁が好漁でした。
- ・3~4月にシラス(主にマイワシシラス)が好漁でした。
- ・4~5月に土佐湾中央部におけるカツオ曳き縄漁が不漁でした。
- ・4~5月にヨコワが好漁でした。
- ・5、6月に芸東海域(室戸岬周辺)定置網にゴマサバ当歳魚が大量入網しました。

【今後の見通し(平成17年8~12月)】

1. 黒潮

8月現在、C型流路の黒潮は、10月までこの状態で推移します。11月以降はD型流路を経てN型(直進型)へ移行すると予想されます。

四国沖では、足摺岬沖で「接岸」、室戸岬沖で「接岸」から「やや離岸」の状態が継続しますが、8月に九州南東沖で小蛇行が形成され、その東進にともない9月に足摺岬沖でも一時離岸します。

(根拠)

人工衛星による日本南方海域の海面高度データを利用した小蛇行の形成・発達・東進の予測手法によっています。

2. 沿岸の水温

- 土佐湾 : 「平年並み」から「高め」で推移する。
豊後水道東部海域 : 「平年並み」で推移する。
紀伊水道外域西部海域 : 「平年並み」から「やや高め」で推移する。

(根拠)

- ・高松地方気象台発表の「四国地方3か月予報」(6月23日発表、予報期間7~9月)によると、期間中の平均気温は「平年並み」か「高い」。
- ・神戸海洋気象台発表の「平成17年夏季の南日本海区の海面水温予報」(5月31日発表、予報期間7~9月)によると、南日本海区の海面水温は全般的に「平年並」と予想されている。
- ・近年、土佐湾の表面水温は高め傾向で推移している。

漁況

1 サバ類(ゴマサバ及びマサバ)

【漁況経過(平成17年4月~平成17年6月)】

1 高知県

- (1)宿毛湾の中型まき網による漁獲量は1,727トン(以下、漁獲量は期間中の合計を示します。)で、前年比215%、平年(以下、平年とは平成6年から平成15年の10年間の平均値を示します。)比107%と比較的好調でした。まき網漁獲物の体長測定結果では、全てがゴマサバで、魚体は平成16年生まれ(尾叉長25~32cm)が主体でした。
- (2)定置網(窪津・加領郷・椎名3水揚地合計)による漁獲量は183トンで、低調であった前年(50.8トンの3.6倍、平年(130トンの約1.4倍)と好漁でした。
定置網漁獲物の体長測定及び芸東地区3漁場(椎名、高岡、加領郷)の定置網入網調査等の結果では、95%以上がゴマサバで、600g/尾以上の大型高齡魚(3歳以上)の漁獲は減少しましたが、16年生まれの1歳魚(250~350g)及び17年生まれの0歳魚(100g/尾以下)主体の漁模様となりました。特に4~5月には芸東地区で平成16年生まれの1歳魚の大量入網が認められたほか、当歳魚(17年生まれ)も前年を大幅に上回る入網となりました。
- (3)釣(立縄・多鈎釣等、清水・加領郷・室戸・甲浦4水揚地合計)による漁獲量は260トンで、不漁であった前年の56%、平年の79%と低調でした。また、漁獲の主体はゴマサバでマサバはほとんど認められませんでした。土佐清水市漁協での立縄漁獲物の体長測定結果では、ゴマサバの魚体は30~45cmの範囲でした。

2 周辺各県の経過

- 宮崎県:まき網(北浦、島浦、青島の3港)による平成17年4~6月の総漁獲量は2,685トンで、前年比650%、平年比289%(平成12年~平成16年の平均値)と高い水準で推移しました。魚種はゴマサバで、30cm未満の平成16年生まれの1歳魚が主体となりました。
- 愛媛県:豊後水道では前年に引き続き南部を中心にゴマサバ主体の漁場が形成され、総漁獲量は1,835トンで、前年(2004年)、平年(昭和60年~平成16年の平均値)を上回りました。
- 和歌山県:紀伊水道外域の2そうまき網の4~6月の漁獲量は1歳魚(H16生まれ)のゴマサバ主体に950トンで、前年比457%、平年比121%の好漁でした。熊野灘定置網では4月にゴマサバ主体に漁がまとまり、高水準であった前年同期を下回ったものの平年を上回りました。

【漁況予測(平成17年8~12月)】

- (1)漁獲対象:平成17年生まれ及び平成16年生まれが対象となり、特に平成16年度生まれが主体となるでしょう。平成15年生まれ以上の高齡魚はわずかとなるでしょう。

(2) 来遊水準：

- ・ 宿毛湾周辺海域では、ゴマサバは平成 17 年生まれ及び平成 16 年生まれ主体の来遊で、好調であった前年を上回るものと考えられます。なお、海況条件が良好であれば、土佐湾西部海域に大量に滞留していると思われる平成 16 年生まれ群の来遊も見込まれ、平年以上の好漁となる可能性も考えられます。
マサバの来遊は依然として低水準と思われるます。
- ・ 土佐湾以東の海域では、ゴマサバ 1 歳魚(平成 16 年生まれ)の来遊が多く、期後半には 0 歳魚(平成 17 年生まれ)の来遊の可能性もあるため、前年並びに平年を上回るとは考えられますが 2 歳魚(平成 15 年生まれ)以上の来遊は少ないと考えられます。
マサバの来遊は引き続き低水準と思われるます。

説明：

ゴマサバ：平成 17 年のゴマサバ太平洋系群の資源水準は中位、動向は横ばい傾向と評価されています。中央水産研究所の解析によれば、このうち平成 16 年生まれ群のゴマサバの資源量は平成 8 年生まれ群に次ぐ高い水準にあったこと、主漁場である関東周辺海域における漁獲尾数が少なかったことから、依然高い水準が保たれており多くの来遊が期待されることが報告されています。また、平成 17 年生まれ群は本県、宮崎県など太平洋南区では前年を上回る来遊が認められており、16 年生まれを下回るものの、高い資源水準の可能性のあることから、期後半の来遊も期待されます。一方、黒潮が離岸すると、釣サバの漁況が不調になる傾向がありますが、今期は黒潮の蛇行が解消し、本県地先では黒潮が概ね接岸傾向で推移するものと推定されます。16 年生まれ群及び 17 年生まれ群のゴマサバは四国沖合海域にも多く滞留しているものと思われ、先に述べた海況により、かなりの来遊が期待されます。なお、平成 15 年生まれ群はこれまでの調査や漁況の経過から資源水準は低いと考えられており、来遊はあまり期待できません。

マサバ：マサバ太平洋系群は平成 16 年度と異なり資源水準は依然として低位であるものの、動向は増加の傾向にあると考えられています。しかしながら伊豆諸島周辺海域以西では、来遊するサバ類のうちマサバの割合は低く、高知県海域も近年は同様の傾向です。平成 17 年春季に沿岸に来遊したマサバ幼魚の割合は前年に比べ増加していますが、ゴマサバに比べると極めて低い状況であることから、マサバの来遊はあまり期待できず、漁獲があっても散発的でしょう。

II マアジ

【漁況経過（平成 17 年 1 月～平成 17 年 6 月）】

1 高知県

(1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は 330 トンで、前年比 105%、平年比 58% でした。銘柄別にみると、150g/尾以上の「アジ」は 92 トンで、前年比 202%、平年比 83% でした。150g 未満/尾の「ゼンゴ」は 238 トンで、前年比 88%、平年比 52% とやや不調な漁模様でした。

魚体は、まき網漁獲物の体長測定結果から、3～6 月は前年発生群(16～19cm)が主体であったと思われるます。

(2) 定置網(窪津・加領郷・椎名 3 水揚地合計)による漁獲量は 315 トンで、前年比 142%、平年比 90% でした。

2 周辺各県の経過

宮崎県：まき網(北浦、島浦、青島の 3 港)による平成 17 年 1～6 月の総漁獲量は 1656 トンで、前年比 58%、平年比 132% (平成 12 年～平成 16 年の平均値) でした。

愛媛県：豊後水道では中部海域主体に漁場が形成され、総漁獲量は 1705 トンと前年(2456 トン)及び近年(1953 トン、平成 12 年～平成 16 年の平均値)を下回りました。

和歌山県：紀伊水道外域 2 そうまき網(比井崎、御坊市、田辺計)の漁獲量は 715 トンで、前年比 58%、平年比 48% (平成元年～平成 16 年の平均値) と低調でした。

【漁況予測（平成 17 年 8～12 月）】

来遊量：

- (1) 漁獲対象：0 才魚（19cm 以下、平成 17 年生まれ）、1 才魚（20～24cm、平成 16 年生まれ）主体
(2) 来遊水準：
・宿毛湾周辺、土佐湾以東ともに前年並から前年を下回る見込みです。

説明：

マアジ太平洋系群の資源水準は中位で、動向は減少傾向にあります。

今季の主体となるマアジのうち、1 才魚は、高知県では比較的多く来遊がみられたものの、他の南日本各地では前年を下回る水準で推移しています。また、0 才魚の加入も南日本の各地で低い傾向にあります。2 才魚以上は少ないでしょう。全体では前年並みから前年を下回る見込みです。

III マイワシ

【漁況経過（平成 17 年 4 月～平成 17 年 6 月）】

1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は 68.1 トンで、前年（13.2 トン）を上回りましたが、平年（122.8 トン）を下回りました。
(2) 定置網（窪津・加領郷・椎名 3 水揚地合計）による漁獲量は 79.3 トンで、前年（10.5 トン）及び平年（61.3 トン）を上回りました。

2 周辺各県の経過

宮崎県：4 月から 6 月の総漁獲量は約 3 トンで混獲程度でした。

愛媛県：北部・中部ではほとんど水揚げはなく、南部で 54 トンの水揚げがありました。前年（平成 16 年）、近年（平成 12 年～平成 16 年）、平年（昭和 60 年～平成 16 年）と比較すると、低水準であった前年を上回りましたが、近年・平年は下回りました。

和歌山県：串本・南部町漁協の 1 そうまき網では、前年及び平年を下回りました。熊野灘定置網ではほとんど漁獲がありませんでした。0 才魚を漁獲対象とする南部町漁協の棒受網では 5-6 月に前年及び平年を上回る漁獲があり、4-6 月でも前年及び平年を上回りました。

【漁況予測（平成 17 年 8～12 月）】

- (1) 漁獲対象：0 才魚（平成 17 年生まれ）、1 才魚（平成 16 年生まれ）主体
(2) 来遊水準：散発的な来遊で、好漁であった前年並から前年を下回ると思われる。

説明：

近年におけるマイワシの本県漁獲動向及び上半期のマイワシシラス来遊量が多かったことから、下半期のマイワシ来遊量は、好漁であった前年並か前年を下回ると予想されます。ただし、マイワシ太平洋系群の資源水準は過去 20 年では低位で、現在も依然として資源量は低水準のため、散発的な来遊と考えられます。

IV カタクチイワシ

【漁況経過（平成 17 年 4 月～平成 17 年 6 月）】

1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲は 737.0 トンで、前年（597.9 トン）及び平年（330.4 トン）を上回りました。銘柄別では幼魚「ドロ」は 425.3 トンで、前年（224.1 トン）及び平年（95.1 トン）を上回りました。未成魚・成魚の銘柄「タレ」は 311.8 トンで、前年（373.9 トン）を下回りましたが、平年（235.3 トン）は上回りました。

(2)定置網(窪津・加領郷・椎名3水揚地合計)による漁獲量は102.8トンで前年(18.4トン)・
平年(50.5トン)を上回りました。

2 周辺各県の経過

宮崎県：4月から6月の総漁獲量は602トンで、前年同期比10%、平年比10%と前年・平年を大
きく下回りました。

愛媛県：カタクチイワシの水揚量は、北部6トン、中部16トン、南部91トンで南部主体に漁場が
形成されていました。全体の水揚量は113トンで、高水準であった前年だけでなく、近年(平成
12年~平成16年)・平年(昭和60年~平成16年)も下回りました。

和歌山県：漁獲対象魚種ではなく、熊野灘定置網でもほとんど漁獲がありませんでした。

【漁況予測(平成17年8~12月)】

(1)漁獲対象：0才魚(平成17年生まれ)、1才魚(平成16年生まれ)。

(2)来遊水準：前年を上回ると考えられます。

説明：

カタクチイワシ太平洋系群の資源水準は過去20年では高位にあり、動向は横ばい傾向にあり
ます。また、近年における本県の漁獲動向及びカタクチシラスが出現し始める4月のシラス来遊
量が多かったことなどから、下半期の来遊量は前年を上回ると予想されます。

V ウルメイワシ

【漁況経過(平成17年1月~平成17年6月)】

1 高知県

(1)宿毛湾の中型まき網による漁獲量は808.7トンで、前年(360.2トン)及び平年(603.1トン)
を上回りました。

(2)定置網(窪津・加領郷・椎名3水揚地合計)による漁獲量は94.5トンで、前年(64.5トン)
及び平年(24.9トン)を上回りました。

(3)宇佐漁協の多鈎釣漁(土佐湾中央部)による漁獲量は104.0トンで、前年(111.2トン)及び
平年(119.8トン)をわずかに下回りました。

2 周辺各県の経過

宮崎県：1月から6月の総漁獲量は1,671トンで、前年同期比83%、平年比94%と前年・平年
を下回りました。3月は前年及び平年を大きく上回りましたが、4月から6月は前年及び平年
を下回り、低調に推移しました。

愛媛県：北部・中部ではほとんど漁獲はなく、南部で900トンの漁獲がありました。前年、近年(平
成12年~平成16年)・平年(昭和60年~平成16年)と比較すると、すべてを上回る高水準の
漁獲となりました。

和歌山県：串本・南部町漁協の1そうまき網では、5-6月に成魚の漁獲があったものの、前年及び
平年を下回りました。熊野灘定置網では6月を除きほとんど漁獲はありませんでした。0才魚を
漁獲対象とする南部町漁協の棒受網では、前年を下回り、平年並の漁獲となりました。また、串
本漁協の棒受網では、前年を上回り、平年並の漁獲となりました。

【漁況予測(平成17年8~12月)】

(1)漁獲対象：0才魚(平成17年生まれ)、1才魚(平成16年生まれ)主体。

(2)来遊水準：前年を上回ると予測されます。

説明：

ウルメイワシ太平洋系群の資源水準は過去20年の変動の中で高位にあり、動向は横ばい傾向
にあると考えられます。また、資源量の指標となる産卵量は平成15年、平成16年と高水準にあ

り、主な産卵場は土佐湾にあります。このように、ウルメイワシ太平洋系群の資源水準及び近年における本県の漁獲動向などから、下半期の来遊量は前年を上回ると予想されます。

VI シラス

【漁況経過（平成 17 年 4 月～平成 17 年 6 月）】

1 高知県

機船船曳網（安芸地区・春野町・錦浦・田野浦 7 水揚地合計）による漁獲量は 365.6 トンで、前年（58.8 トン）及び平年（195.1 トン）を大きく上回りました。

2 周辺各県の経過

宮崎県：4 月から 5 月の総漁獲量は 1,172 トンで前年及び平年を上回りました。4 月に 1,106 トンの漁獲があり、当該月においては過去 20 年間の集計で 1 番の豊漁となりました。

愛媛県：吉田町でのカタクチシラスの共販取扱量は、36 トンでした。前年、近年（平成 12 年～平成 16 年）過去 10 年と比較しますと、過去 10 年平均は下回りましたが、近年、前年を上回りました。

【漁況予測（平成 17 年 8～12 月）】

(1) 漁獲対象：0 才魚（平成 17 年生まれ）

(2) 来遊水準：前年並から前年を上回る。

説明：

本県では、下半期の漁獲は 11、12 月の漁獲に左右され、現段階ではその時期の予測は困難です。ただし、高知県周辺海域における親魚（カタクチイワシ、ウルメイワシ、マイワシ）の来遊水準は比較的高い水準にありますので、下半期のシラス来遊量は前年並から前年を上回ると予想されます。

高知県長期漁海況予報（要約版）

平成18年上半期(1～6月)の漁況・海況の予想

平成18年1月発行 高知県水産試験場

このたび、平成18年1月から6月を予測期間とした「平成17年度第2回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁況海況予報会議」が横浜市で開催されました。国、高知県及び関係都道府県等の最新の調査結果から長期予報が作成されましたので、高知県関係を中心にその概要をお知らせします。

海 況

【海況の経過（平成17年7月～11月）】

1．黒潮

足摺岬沖では、7月は「接岸」～「やや離岸」、8月以降は「接岸」で推移しました。室戸岬沖では、7月～9月中旬にかけては「接岸」～「やや離岸」で推移しました。その後9月中旬以降は「接岸」となり、期間中継続しました。

以上のように、高知県沖における今期の黒潮は全般に接岸基調で推移しました。

2．沿岸海況

今期は全般に表層は高め、200mは低め基調で推移しました。

月別にみると、7月は0mで「やや低め」、50、200mで「かなり低め」、100mで「著しく低め」でした。8月は0mで-基調の「平年並み」、50、100mで「著しく低め」、200mで「かなり低め」でした。9月は0、100mで+基調の「平年並み」、50mで「やや高め」、200mで「やや低め」でした。10月は0、50mで「かなり高め」、100mで「やや高め」、200mで「著しく低め」でした。11月は0mで「かなり高め」、50mで「やや高め」、100mで「かなり低め」、200mで「著しく低め」でした。

3．特異現象

海況

・土佐湾平均水温（1975年以降、欠測年あり）において、10月の0mは過去最高水温、7月の50m、100m、8月の100mは過去2番目の低水温、11月の200mは過去最低水温を記録しました。

漁況

・7月下旬から、エチゼンクラゲが室戸、足摺両岬周辺の定置網に入網しました。その後、土佐湾内のシラスパッチ網にも入網しました。

・シラス漁は、下半期としては平年並みの漁獲で前年を上回ったものの、11月に不漁となりました（11月の平年比約20%）。

・室戸岬周辺のキンメダイが10、11月に不漁でした。

・夏期に5kg級のヨコワが足摺岬周辺の定置網に入網しました。

・宿毛湾の中型まき網漁で、7月、10月のウルメイワシの水揚げ量が1983年以降の最高値を記録しました。

【今後の見通し（平成18年1～6月）】

2．黒潮

12月現在、N型（直進型）の黒潮は、予測期間を通してこの状態で推移すると予想されま
す。

四国沖では、期間を通して接岸傾向で推移し、離岸現象が起きても小規模であると考えら
れます。

（根拠）

人工衛星による日本南方海域の海面高度データを利用した小蛇行の形成・発達・東進の予
測手法によっています。

2．沿岸の水温

- 土佐湾：「平年並み」から「高め」で推移する。
豊後水道東部海域：「平年並み」から「やや高め」で推移する。
紀伊水道外域西部海域：「平年並み」から「高め」で推移する。

（根拠）

- ・高松地方気象台発表の「四国地方3か月予報」（12月22日発表、予報期間1～3月）によ
ると、期間中の平均気温は「平年並み」か「高い」。
- ・近年、土佐湾の表面水温は高め傾向で推移している。
- ・黒潮は接岸傾向で推移すると考えられる。

漁 況

1 サバ類（ゴマサバ及びマサバ）

【漁況経過（平成17年7月～11月）】

1 高知県

(1)宿毛湾の中型まき網による漁獲量は2,339トン（以下、漁獲量は期間中の合計を示します。）で、
前年（1,645トン）、平年（966トン）以下、平年とは平成6年から平成15年の10年間の平均値
を示します。）を大きく上回りました。

まき網漁獲物の体長測定結果によると、ゴマサバ主体で魚体は1歳魚（平成16年生まれ、尾叉
長28～33cm）が主体で2～4歳魚は殆ど認められませんでした。

(2)定置網（窪津・加領郷・椎名3水揚地合計）による漁獲量は223トンで、前年（305トン）を
下回り、平年（181トン）を上回りました。

漁獲物の体長測定並びに県東部室戸地区の2漁場（椎名、高岡）の定置網入網調査等の結果によ
ると、99%以上がゴマサバでしたが、2歳以上の大型魚の入網は少なかったようです。また、本
年上半期に認められました、0，1歳魚（～400g）の大量入網は8月まで続き漁獲の主体となり
ましたが、以後は減少しました。

(3)釣（立縄・多鈎釣等、清水・加領郷・室戸・甲浦4水揚地合計）による漁獲量は759トンで、
前年（482トン）、平年（675トン）を上回りました。

期間中、マサバの混獲は少なく、漁獲はゴマサバ主体でありました。県西部、土佐清水地区の立
縄漁獲物は体長測定結果によりますと、ゴマサバの魚体は尾叉長30～45cmの範囲にあり、主体
は例年同様2歳魚以上でしたが、9月上旬からは31～32cmの1歳魚と考えられる小型魚（平成
16年級群）が出現し、40cm以上の大型個体が減少しました。一方、県東部室戸地区での市場調
査（室戸、加領郷）の結果によると、8月以降1，2歳魚（300～500g）の小型魚を主体とする
漁獲が増加しました。

2 周辺各県の経過

宮崎県：まき網（北浦、島浦、青島の3港）による7～11月の総漁獲量はゴマサバ主体に9,953
トンで、前年比460%、平年比732%（平成12年～平成16年の平均値）でした。

愛媛県：豊後水道では南部を中心に漁場が形成され、総漁獲量は3,522トンで前年（2,241トン）

近年(2,208トン 平成12年～平成16年平均)、平年(2,086トン 昭和60年～平成16年)を上回りました。

和歌山県：紀伊水道外域の2そうまき網による7～11月の総漁獲量はゴマサバ主体に1,647トンで、前年同期を約15%上回ったものの、平年(平成元年～平成17年平均値)比は53%と大きく下回りました。熊野灘南部定置網の7～11月の総漁獲量はゴマサバ主体に73.8トンで前年比473%、平年比135%でした。

【漁況予測(平成18年1～6月)】

(1)漁獲対象：1歳魚(平成17年級群)、2歳魚(平成16年級群)が主体。3歳魚(平成15年級群)からはわずか。

(2)来遊水準：

・宿毛湾周辺海域では資源レベルの高い2歳魚(平成16年級群)に加え、同年級群を下回るものの、高水準と考えられる1歳魚(平成17年級群)の来遊も期待され、平年を上回るものと思われる。マサバは依然として低水準と思われます。

・土佐湾以東の海域では、ゴマサバ2才魚(平成16年級群)主体の来遊が主体となりますが、漁期後半には1歳魚(平成17年級群)の来遊も期待されることから、平年を上回り好漁であった前年並となるものと思われる。3歳魚(平成15年級群)以上の大型魚の来遊は少ないと思われる。

マサバは依然として低水準と思われます。

説明：

ゴマサバ：ゴマサバ太平洋系群の資源水準は中位、動向は横ばいと評価されています。このうち平成16年生まれの資源水準は平成8年に次ぐ高水準であったことが報告されています。また、4月以降定置網に大量に入網した平成17年生まれば、7月以降も近県で漁獲量が多かったことから16年度生まれには劣るものの、高い資源水準であったものと考えられています。従って今期(1～6月)にはこれらの南下回遊による本県海域への高レベルの来遊が期待されます。

一方、平成15年生まれ及び14年生まれの資源水準は低く、残存資源量も少ないものと考えられており、来遊は多くを期待できない状況です。

マサバ：マサバ太平洋系群の資源水準は低位、動向は増加傾向にあると評価されています。しかしながら、伊豆諸島周辺以西の海域では来遊は依然として低水準であるため、本県海域への来遊はあまり期待できず、漁獲があっても散発的なものと考えられます。

11 マアジ

【漁況経過(平成17年7月～11月)】

1 高知県

(1)宿毛湾の中型まき網による漁獲量は571トンで、前年(1,497トン)、平年(733トン)を大きく下回りました。銘柄別にみると、150g未満の「ゼンゴ」は327トンで、前年(1,283トン)、平年(486トン)を大きく下回りました。150g以上の「アジ」は244トンで、前年(213トン)、平年(248トン)並でした。

魚体は、漁獲物の体長測定および銘柄別漁獲量によると、0歳魚(平成17年生まれ)は8月に尾叉長11～14cmでまとまって漁獲された他は低水準でした。他の月は1歳魚以上(19～23cm)が主体に漁獲されたと考えられます。

(2)定置網(窪津・加領郷・椎名3水揚地合計)による漁獲量は90トンで、前年(112トン)、平年(139トン)を下回りました。

魚体は、芸東地区3漁場(椎名、三津、高岡)における定置網入網調査等の結果によると、100g未満が主体で、体長測定結果では尾叉長11～16cmであったことから、0歳魚が主体に漁獲されていたと考えられます。

2 周辺各県の経過

宮崎県：まき網（北浦、島浦、青島の3港）による7～11月の総漁獲量は2,171トンで、前年比46%、平年比60%（平成12年～平成16年の平均値）でした。

愛媛県：豊後水道では中南部海域を主体に漁場が形成され、総漁獲量は3,862トンで、高水準であった前年（4,304トン）を下回りましたが、近年（2,611トン）、平年（2,241トン）は上回りました。

和歌山県：紀伊水道外域2そうまき網による漁獲量は、7月にまとまった漁獲がみられた以外は低調に推移し、7～11月計では前年・平年を下回った（7～11月計820.8トン、前年比80%、平年比65%）。

【漁況予測（平成18年1～6月）】

(1)漁獲対象：0才魚（平成18年生まれ）、1才魚（平成17年生まれ）主体。

(2)来遊水準：

・宿毛湾周辺海域、土佐湾以東ともに前年並みから前年を下回る。

説明：

宿毛湾では、平成17年下半期のゼンゴが低調であったことから、来期の主体となる1歳魚（平成17年生まれ）の来遊水準が低いと推定され、前年を下回る来遊量と考えられます。

土佐湾以東の海域では0歳、1歳魚主体に来遊します。0歳魚は期後半に来遊すると考えられますが、現時点ではその水準は不明です。1歳魚の来遊水準は低いと考えられることから、当海域への来遊は前年を下回ると思われます。2才魚以上は少ないでしょう。全体では前年並みから前年を下回ると思われます。

III マイワシ

【漁況経過（平成17年7月～11月）】

1 高知県

(1)宿毛湾の中型まき網による漁獲は161トンで、前年（964トン）を大きく下回り、平年（158トン）並でした。

(2)定置網（窪津・加領郷・椎名3水揚地合計）による漁獲量は43トンで、前年（45トン）並で、平年（55トン）を下回りました。

2 周辺各県の経過

宮崎県：まき網（北浦、島浦、青島の3港）では7月から11月の総漁獲量は265トンで、9月に262トンとまとまった漁獲がありました。

愛媛県：豊後水道では南部海域を中心に漁場が形成され、総漁獲量は416トンで、高水準であった前年（750トン）を下回りましたが、近年（242トン）は上回りました。

和歌山県：串本漁協1そうまき網では、7月は低調でありましたが、8月後半以降は熊野灘側の檜野埼周辺で当歳魚を主体とする漁場が形成され、好調に転じました（串本・南部町漁協の1そうまき網8-11月577.2トン、前年比：2,248.9%、平年比：320.2%）。

【漁況予測（平成18年1～6月）】

(1)漁獲対象：0歳魚（平成18年生まれ）、1才魚（平成17年生まれ）主体

(2)来遊水準：散発的な来遊で、前年並か前年を下回ると思われます。

説明：

高知県における近年の漁獲動向から考えると、前年（平成17年）上半期におけるマイワシ漁獲量は近年では比較的好漁であったため、平成18年上半期の漁獲量は前年並から下回ることが予想されます。太平洋全体のマイワシ資源水準は未だ低水準であることから、散発的な来遊と考えられます。

IV カタクチイワシ

【漁況経過（平成 17 年 7 月～11 月）】

1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲は 692 トンで、前年（215 トン）、平年（194 トン）を大きく上回りました。銘柄別では、幼魚の銘柄「ドロ」は 283 トンで前年（18 トン）、平年（50 トン）を大きく上回りました。未成魚・成魚の銘柄「タレ」は 409 トンで前年（197 トン）、平年（143 トン）を大きく上回りました。
- (2) 定置網（窪津・加領郷・椎名 3 水揚地合計）による漁獲量は 7 トンで前年（22 トン）を下回り、平年（9 トン）並でした。

2 周辺各県の経過

宮崎県：まき網（北浦、島浦、青島の 3 港）による 7～11 月の総漁獲量は 948 トンで、前年比 72%、平年比 40%（平成 12 年～平成 16 年の平均値）でした。

愛媛県：豊後水道では中南部海域を中心に漁場が形成され、総漁獲量は 3,194 トンと前年（2,915 トン）、近年（1,501 トン）、平年（2,098 トン）を上回りました。

和歌山県：漁獲対象種ではないため、漁獲動向から漁況を判断できません。

【漁況予測（平成 18 年 1～6 月）】

- (1) 漁獲対象：0 才魚（平成 18 年生まれ）、1 才魚（平成 17 年生まれ）。
- (2) 来遊水準：高水準であった前年並で推移すると思われます。

説明：

近年における本県の漁獲動向や平成 17 年下半期漁獲量から考えると、高水準であった前年並で推移すると思われます。

近年、下半期には漁獲がほとんど無い傾向にありましたが、宿毛湾では平成 17 年下半期には漁がみられ、過去 10 年間で最高の漁獲量を記録しました。このことから、平成 18 年上半年期も漁が続くと考えられ、好漁であった前年並で推移することが予想されます。

V ウルメイワシ

【漁況経過（平成 17 年 7 月～11 月）】

1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は 1613 トンで、前年（699 トン）、平年（453 トン）を大きく上回りました。また、7 月（780 トン）と 10 月（473 トン）には過去最高の漁獲量を記録しました。魚体測定の結果をみますと、7 月には 20cm 前後（1 歳魚）が、10 月には 15cm 前後（0 歳魚）が主体に漁獲されました。
- (2) 定置網（窪津・加領郷・椎名 3 水揚地合計）による漁獲量は 147 トンで、前年（106 トン）、平年（84 トン）を上回りました。魚体測定の結果、0 歳魚が主体に漁獲されました。
- (3) 宇佐漁協の多鈎釣漁（土佐湾中央部）による漁獲量は 59 トンで、前年（15 トン）、平年（16 トン）を上回りました。

2 周辺各県の経過

宮崎県：まき網（北浦、島浦、青島の 3 港）による 7～11 月の総漁獲量は 3,961 トンで、前年同期比 134%、平年比 145%と前年・平年を上回りました。7 月と 9 月には 1,800 トンを超える漁獲がありました。

愛媛県：豊後水道は南部を中心に漁場が形成され、総漁獲量は 2,501 トンで、前年（847 トン）、近年（725 トン）、平年（516 トン）を上回りました。

和歌山県：串本漁協の 1 そうまき網では、7 月は低調であったが、8 月後半以降は熊野灘側の檜野崎周辺で当歳魚を主体とする漁場が形成され、好調に転じました（串本・南部町漁協の 1 そうまき網 8-11 月 417.4 トン、前年比：3,047.2%、平年比：591.4%）。棒受網および定置網でも前年、平年を上回る好漁でありました。

【漁況予測（平成 18 年 1～6 月）】

- (1) 漁獲対象：0 歳魚（平成 18 年生まれ） 1 歳魚（平成 17 年生まれ）
(2) 来遊水準：高水準であった前年並か、それを上回る来遊量が予想されます。

説明：

高知県のウルメイワシ漁獲量の大半を占める宿毛湾中型まき網では、ウルメイワシの下半期漁獲量と翌年の上半期漁獲量に有意な正の相関関係がみられます（下半期に好漁だと翌年上半期も好漁という意味）。平成 17 年下半期の漁獲量は過去 10 年間で最高であったことから、平成 18 年上半期は前年並か、それを上回る高い漁獲量が予想されます。

また、宿毛湾中型まき網における魚体測定データから、10 月の漁獲物は 15cm 前後の 0 歳魚が主体で、近年の魚体測定データから考えると平成 18 年上半期には 20cm 前後に成長して漁獲されることが予想されます。このように平成 17 年下半期における 0 歳魚の来遊量が高水準であったことから、平成 18 年上半期は 1 歳魚主体に高水準であった前年を上回る来遊量が予想されます。

大型定置網においては過去の魚体測定データから、0 歳魚主体に好漁であった前年並で推移することが予想されます。

VI シラス

【漁況経過（平成 17 年 7 月～11 月）】

1 高知県

機船船曳網（安芸地区・春野町・錦浦・田野浦 7 水揚地合計）による漁獲量は 136 トンで、前年（89 トン）を上回り、平年（137 トン）並であった。

2 周辺各県の経過

宮崎県：県内 8 漁協による 7～10 月の総漁獲量は 1,946 トンで、前年比 245%、平年（平成 12 年～平成 16 年）比 162%と大きく上回りました。

和歌山県：紀伊水道パッチ網では、前年および平年を下回りました。（箕島町漁協のパッチ網 7-11 月 45.4 トン、前年比：52.9%、平年比：30.3%、田辺漁協のパッチ網 7-11 月 10.7 トン、前年比：38.0%、平年比：28.7%）

【高知県におけるシラス漁の現状と今後の見通し】

高知県のシラス漁が平成 17 年 10 月の終わりから低迷しています。12 月にはいっても漁がほとんどない状況にあります。平成 15 年および 16 年は 12 月に 140 トンの好漁がみられ、翌年 4 月頃までまとまった漁が続く傾向にありました。しかし、今年 12 月にはいってもほとんど漁がなく、漁模様の回復が期待されています。そこで、このシラス不漁原因を生物と海況の面から考えてみました。

生物（親魚）

平成 16 年におけるシラスサンプルの分析結果によりますと、土佐湾で 12 月に漁獲されるシラスは、ウルメイワシとマイワシシラスが主体となっています。平成 17 年下半期における親魚（ウルメイワシ、マイワシ）の来遊状況をみますと、ウルメイワシは平成 17 年 7 月および 10 月には過去 10 年間で最高の漁獲量があり、下半期は近年にない好漁となりました。また、マイワシは好漁であった前年は大きく下回りましたが、平年並の漁獲量となりました。以上のことから、親魚の来遊状況がシラス不漁の原因になっているとは考えにくいです。

海況

過去 10 年間のデータをみますと、黒潮が足摺、室戸両岬を直線的に接岸して流れるときはシラス漁が好ましくないという傾向があります。この原因として、1) 黒潮が接岸しているときは、シラスの餌となる生物が少ないこと、2) 黒潮が接岸していると土佐湾内に強い左回りの流れが生じ、シラスが滞留しにくいこと、などが考えられます。

平成 17 年 11、12 月の黒潮流路をみますと、足摺、室戸両岬沖ともに接岸基調で推移しており、

このことがシラス漁況に悪影響を与えた可能性があります。

まとめ

以上のように、親魚の来遊状況は良いものの、足摺、室戸両岬における黒潮の接岸がシラス漁況に悪影響を及ぼしている可能性が考えられます。黒潮は今後も接岸基調で推移することが予想され、今後の流路の動向に注目する必要があります。